

愛知県立千種聾学校いじめ防止基本方針

I いじめの防止についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であり、また、どの子どもでも被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、教職員は、日頃からささいな兆候を見逃さないように努め、問題を一人で抱え込んでしまわないよう、学校全体で組織的に指導に当たる。

けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。児童が、いじめを自身の問題として捉え、学校生活の中で、健全な仲間づくりや思いやりの心を育てる活動を工夫するとともに、一人一人の児童が存在感・充実感をもって学校生活を送ることができるように努める。

II いじめ防止対策組織について

いじめのささいな兆候や懸念、児童からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応するために、「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」を設置する。

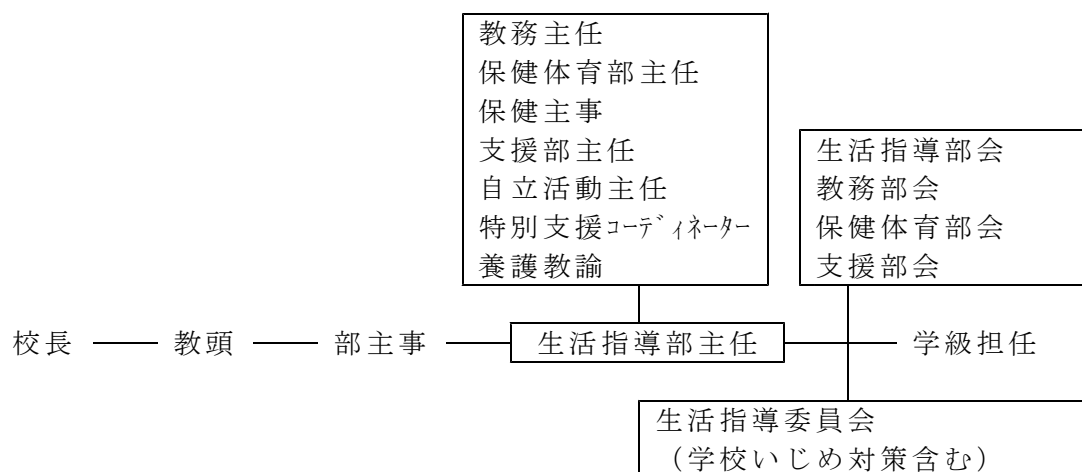
(1) 「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」について

ア 委員会のメンバー

校長、教頭、部主事、生活指導部主任、教務主任、保健主事、保健体育部主任、自立活動主任、支援部主任、特別支援コーディネータ、養護教諭、その他関係者（関係学級担任等）

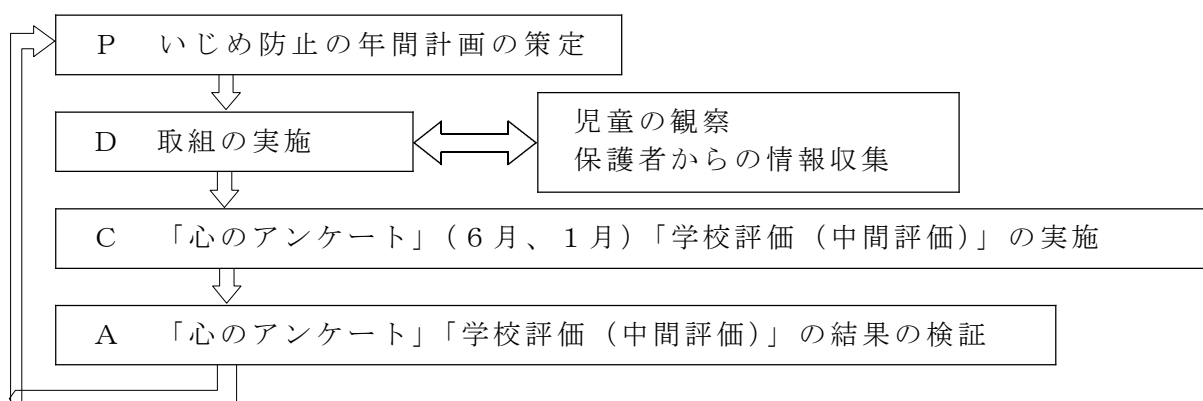
イ 指導・支援チーム

委員会が、事案に応じて、適切な教員等をメンバーとする指導・支援チームを決定し、実際の対応を行わせる。いじめの防止、早期発見、早期対応に当たっては、事案によって関係の深い教職員を追加し、適切なメンバーで対応できるよう柔軟にチームを組んで対応する。



(2) 「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」の役割や機能等

ア 取組の検証（PDCAサイクル）



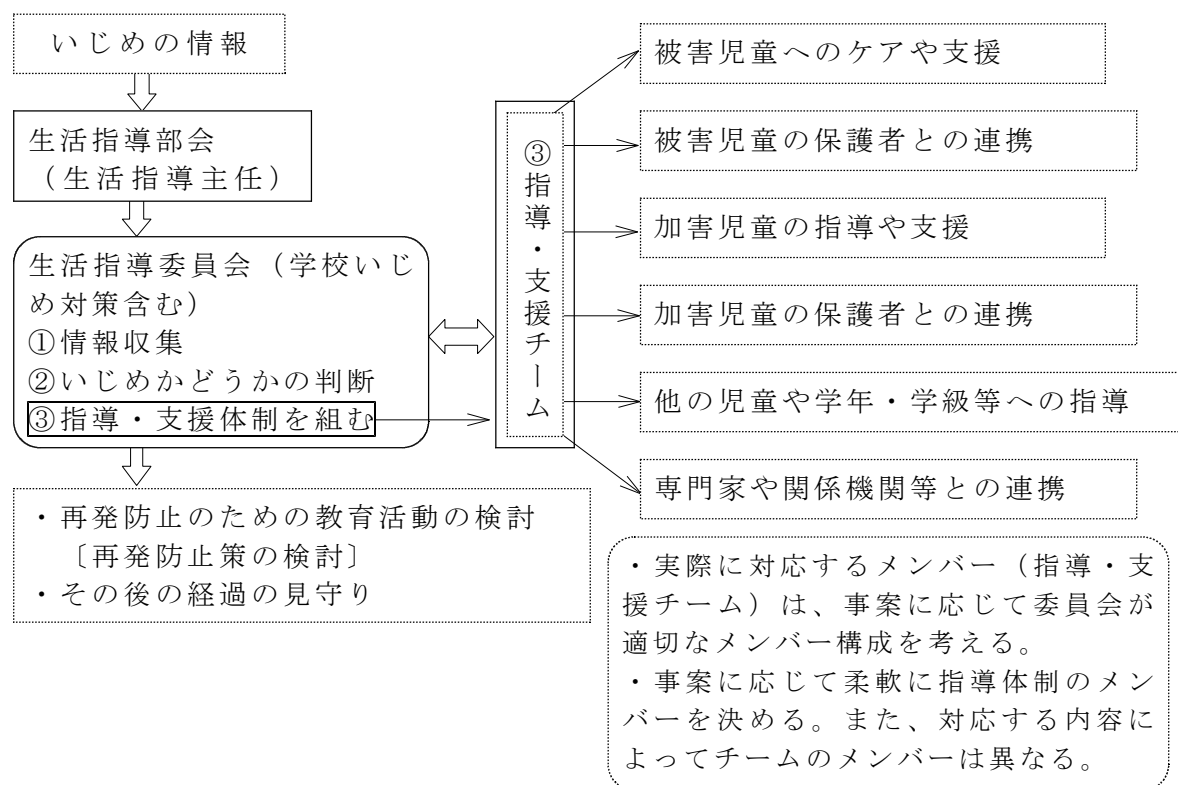
イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「いじめ防止基本方針」の周知と確認を行う。
- ・「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」で検討した内容を職員会議等で報告する。
- ・現職研修で、「人権」をテーマとした研修を実施する。

ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取

- ・「学校いじめ防止基本方針」及び「学校評価」結果を、学校経営案及び学校のホームページに掲載する。
- ・「心のアンケート」の結果を、保護者会や2月の学校関係評価委員会で報告する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）



オ 重大事態への対応

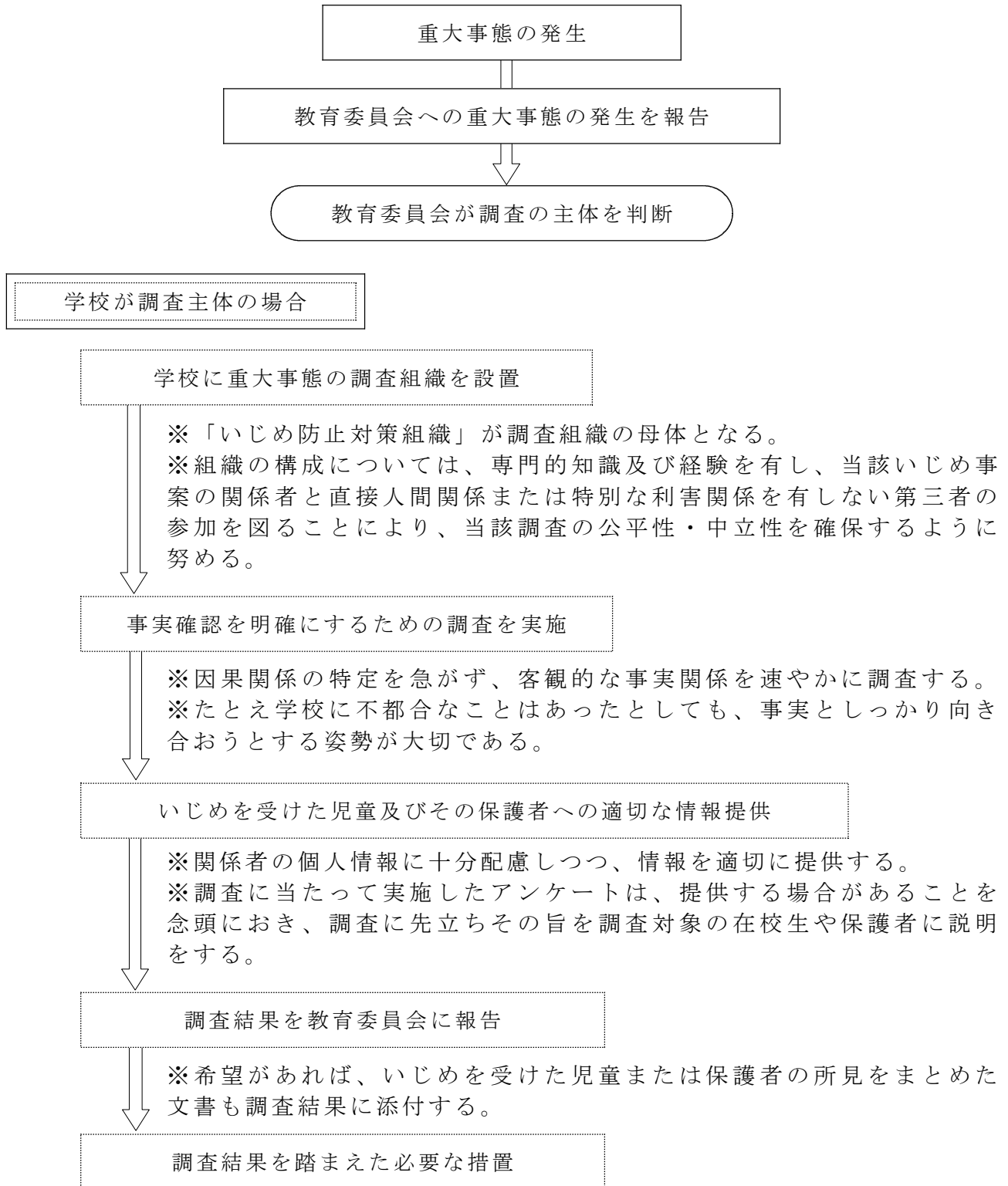
重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告し、文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」に基づいて対応する。

学校が調査を実施する場合は、「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」が調査の母体となる。事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。

【文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」】より

（注）重大事態とは（「いじめ防止対策推進法」第28条）

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき
- 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間（年間30日を目安とする。）学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき



Ⅲ いじめの防止等に関する具体的な取組について

(1) いじめの未然防止の取組

- ア いじめや不登校の態様や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点及び対策等について研修に努め、教師間の共通理解を図る。
- イ 教師間で、普段から児童の状況や指導について情報を共有するように努める。
- ウ 問題傾向をもつ児童についての情報交換の機会を多くし、全教職員による児童の共通理解に努める。
- エ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図る。
- オ 体罰はもとより教職員の言動がいじめを助長することのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。
- カ メールやインターネット上のいじめへの対応については、日頃から情報モラル教育の充実を図る。

(2) いじめの早期発見の取組

- ア 教師は、児童の小さなサインや変化も見逃さないように、常に教育的な感性を磨き、児童の心の内面を理解するように努める。
- イ 家庭における児童の気になる変化について、保護者が積極的に相談できるよう、家庭との信頼関係を築く。
- ウ いじめを認知またはいじめの疑いがある場合は、速やかに生活指導部（生活指導主任）に報告し、必要に応じて「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」を開き、組織的に対応する。
- エ 「心のアンケート」の実施や個人面談、教育相談の充実を図る。
- オ 「心の相談」の窓口を養護教諭（保健室）とし、児童や保護者に周知する。相談の利用状況を生活指導部で把握し、部会や生活指導委員会で報告する。

(3) いじめに対する措置

- ア いじめの発見・通報を受けたら、必要に応じて「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」を開催し、特定の教師で問題を抱えないよう、組織的に対応方針を決定する。
- イ 被害児童を守り通すという姿勢で対応する。
- ウ 加害児童には教育的配慮のもと、指導や支援を行う。
- エ 教師間でいじめに係わる情報を共有し、いじめが解消した状態であっても、児童の様子を日常的に注意深く観察するなど再発防止に努める。
- オ 教職員の共通理解、保護者の協力、関係機関や関係者等との連携のもとで、取り組む。
- カ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。

(4) いじめの防止等に関する取組の年間計画

	未然防止の取組	早期発見の取組	「生活指導委員会（学校いじめ対策含む）」の動き	保護者・地域との連携
1 学期	○携帯電話安全教室〔第3～6学年〕	○「心のアンケート」の実施	○「いじめ防止基本方針」の周知と確認 ◇「生活指導委員会」開催 ○現職研修（「心のアンケート」結果を受けて） ○現職研修（人権教育講習会）	○懇談会 ○参観日 ○学校関係評価委員会
2 学期	○人権週間における人権教育の実施		○学校評価（中間評価）	○参観日 ○懇談会
3 学期		○「心のアンケート」の実施	○現職研修（「心のアンケート」結果を受けて） ◇「生活指導委員会」開催 ○「いじめ防止基本方針」の見直し	○参観日 ○懇談会 ○学校関係評価委員会

